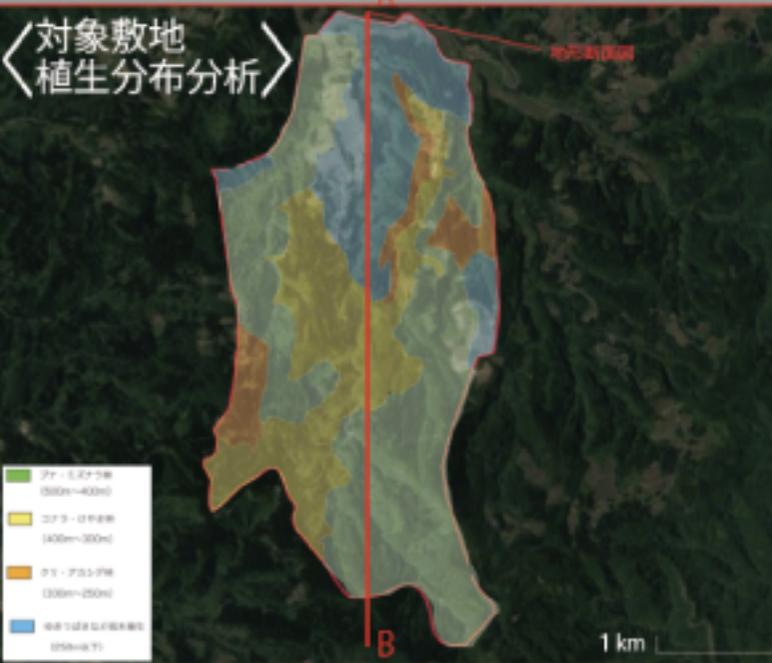
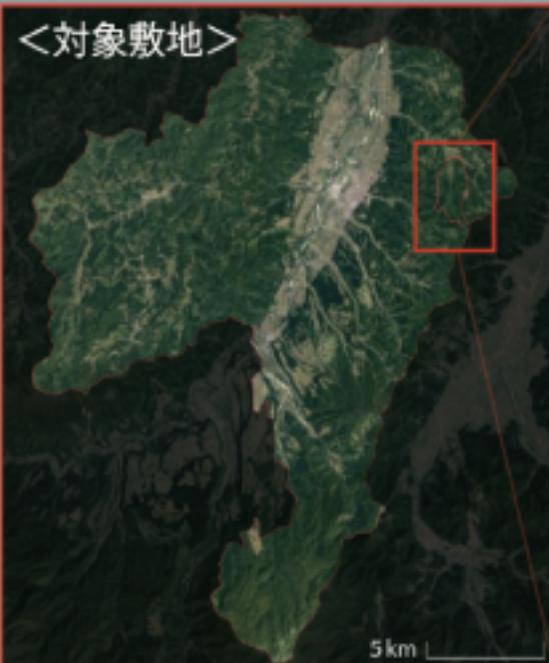


02 対象敷地・現地調査



<調査プロセス>



<生物の痕跡>

- ① 鹿の糞 (撮影 2022/08/07)
サイズから推察できる鹿の大きさは生後約 2 年である。他の地点でも鹿の糞が確認できた。
- ② 猪の肉 (撮影 2022/08/07)
十日町親友会提供の豚の肉。対象敷地内でも猪の痕跡が確認でき、生息していることがわかる。
- ③ 野生たぬき (撮影 十日町親友会)
対象敷地内で確認された野生のたぬき。他にも多数の生息を確認している。
- ④ うさぎの足跡 (撮影 2022/01/25)
野生のうさぎの足跡。
- ⑤ プナの木 (撮影 2022/08/07)
プナとミズナラが混生する人の手でつくられた2次林は十日町を代表する固有の植生である。
- ⑥ カラマンの木 (撮影 2022/08/07)
北国に広く分布する雑木であり、十日町を代表する樹木である。

<現地調査写真>



森から開けた土地では、かつては小さな集落が存在していた畑や水田、民家が広がっていて、里山環境として成立していた。現在は民家は減少し畑や水田は放棄されている場所もある。山へ入ると麓を越えた先は二次林が広がっている。この土地の原生林は十日町特有のプナ林からできており、現在は杉や松などの木が生えている。里山から人の生活という要素がなくなり荒地となる対象敷地。100 年後には今は開けている畑や水田も森や木が生い茂り、荒地となってしまふ。小規模な集落であるが、田畑、水田、川、人間、山の要素から成り立つ完成度の高い里山は現代では重要性が高い。

<調査分析>

